

展示

紹介

資料室では収集した震災資料を活用して、企画展を開催しています。
ここでは現在開催中の展示をご紹介します。

企画展「震災のポスター展」

※展示資料を入れ替えることがあります。時期については
当センターHP、もしくは資料室のFacebookをご確認ください。

阪神・淡路大震災の時、避難所運営や情報発信など、
様々なポスターが制作されました。本企画展では「避難
生活」「支援」「イベント」「復興」の4つのテーマごとに
展示を行っています。これらのポスターから避難所や仮設
住宅での生活風景や公的支援の取り組み、そして被災地
が歩んだ復興への道のりを振り返ってみましょう。

会 期：開催中～令和7年5月25日（日）
会 場：人と防災未来センター西館5階資料室

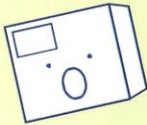


震災資料のメッセージ
「よろず相談室の歩み」

災害によって障害を負った方や、高齢の方にとって、
真の意味での復興は遠いものであり、その点からする
と、阪神・淡路大震災は、依然として現在進行中のもの
であると言えます。

今回の「震災資料のメッセージ」では、災害高齢者・
障害者の声に耳を傾け、ともに生きようとした人々、「よ
ろず相談室」の歩みを辿ります。

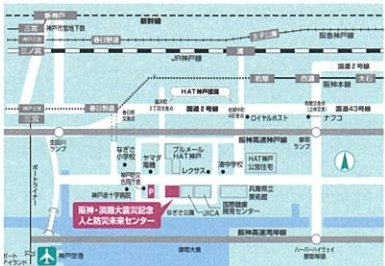
会 期：開催中～令和7年5月25日（日）
会 場：人と防災未来センター西館3階（有料ゾーン）



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな？」と、おっしゃる方も
なかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災
の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL <https://www.dri.ne.jp/>
開室時間 9:30～17:30
閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日）
12月29日から1月3日



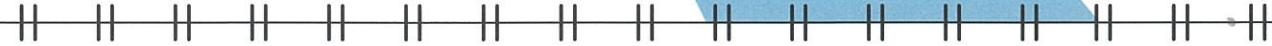
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
DRI The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute

資料室ニュース



阪神・淡路大震災から30年経ちました

1995.1.17



人と防災未来センター資料室はこれからも震災資料の収集・保存及び公開・活用に励み、
阪神・淡路大震災の記憶や経験、教訓を次世代へ継承していきます。

人と防災未来センター資料室 震災資料専門員一同



中越メモリアル回廊研修報告

研修の目的

資料室は2024年11月27日から29日までの3日間、中越メモリアル回廊の4施設と長岡市歴史文書館を訪問し、新潟県中越地震から20年の節目を迎えた各施設の運用状況や今後の展望について情報交換を行いました。



長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

中越メモリアル回廊の中核施設で、新潟県中越地震の経験から学んだ「震災の記憶」を伝承する施設です。震災の記録などを視聴できるシアターがあり、防災関連グッズの紹介もしています。

おぢや震災ミュージアムそなえ館

新潟県中越地震の経験から学んだ「災害への備え」を伝承する施設です。被災当時や避難生活、復興に関する展示をしており、防災学習体験ゾーンでは災害に備えた知識や技の紹介もしています。
(新設される小千谷市防災センター（仮称）内に移転予定)



川口 きずな館

震源地、旧川口町の復興の過程で生まれた「人と人の絆」を伝承し、地域の内外と新たな絆を育んでいく交流拠点施設です。震災の記憶の継承や防災以外にも、交流会やコンサート、料理教室、手芸教室など様々な形で利用されています。



やまこし復興交流館おらたる

甚大な被害を受けた山古志地域の復興を目的とした施設です。地域ガイド案内によるバスツアーで、震災と復興のスポットを巡ることもできます。地域の総合案内窓口として、地域の情報提供や長岡市による健康促進や介護支援等の講座も開催しています。



長岡市歴史文書館

長岡市災害復興文庫として、「災害復興関連資料」「被災歴史資料」「歴史公文書」の3つの文書資料群約5万点が所蔵されています。資料整理にボランティアも活動しています。



新潟県中越地震から20年目の節目を迎え、中越メモリアル回廊の施設では、次世代の子供たちに向けての防災教育をより一層推進されたり、地域の拠り所であり続けようとしていました。

阪神・淡路大震災から30年目の節目を迎え、人と防災未来センターでも次世代の子供たちへの防災教育や資料整理について課題を感じています。

今回の研修を通じて得た知識を今後の資料室の運営に活かすとともに、訪問した施設との連携を深めていきたいと考えています。

トライやるウィーク

神戸市立長峰中学校の生徒さんたち

2024年11月14日から15日まで、神戸市立長峰中学校の生徒さんたちが人と防災未来センター資料室を訪問し、震災資料専門員の仕事を体験しました！

生徒さんたちには、資料室と収蔵庫の見学後、実際に資料の保管と活用に関する業務にトライしてもらいました。

トライした業務のなかでも、閲覧のために収蔵庫から取り出された資料を、閲覧申請書の情報に基づき、元の箱に戻す作業が一番楽しかったとのことでした。

資料保管業務を体験することにより、収蔵庫の機能や、震災資料を管理する資料専門員の仕事に関して理解を深めてもらうことができました。



その他、企画展「震災資料のメッセージ」の準備や、特設図書コーナーの企画・設営にも、積極的に参加、活躍してくれました。

またお会いする日を楽しみにしております！

JICA からの訪問

研修事業「博物館とコミュニティ開発」

2024年12月11日の午後、人と防災未来センター資料室に、国立民族学博物館がJICA (Japan International Cooperation Agency: 独立行政法人国際協力機構) から受託している研修事業「博物館とコミュニティ開発」の研修員が来室しました。

震災資料専門員が9カ国9名の研修員に対して資料室と収蔵庫を案内し、資料室の業務全般について説明しました。

文化や言語の違いによる難しさはありましたが、研修員からの積極的な質問も多数あり、人と防災未来センター資料室の活動と存在意義を知っていただくことができたと思います。

来室してくださった皆様が、世界各地でご活躍されることを心より望んでおります。

